

アーカイブ実践報告 法政大学大原社会問題研究所

2018年11月20日於国立女性教育会館
「アーカイブ保存修復研修（基礎コース）」
榎一江

はじめに

1 大原社会問題研究所の歴史

「社会労働問題」の研究所

「利用者の資格を問わない専門図書館・資料館」

『日本労働年鑑』の刊行

2 所蔵資料の概要

3 資料の収集・整理・保存・公開をめぐって

『水平新聞』の事例

1 大原社会問題研究所の歴史

- 1919年大阪で創立（設立者大原孫三郎）
- 1937年東京に移転
- 1949年法政大学と合併
- 1986年多摩校地に移転



1920年に新築された研究所



現在の研究所（法政大学多摩キャンパス）



1923年12月書庫の増設



大原社会問題研究所構成員（2018年11月1日現在）

<専任研究員>3人

- ・資料、月例研究会等
- ・所長、日本労働年鑑
- ・大原社会問題研究所雑誌

<任期付専任研究員>1人

- ・環境アーカイブズ

<兼任研究員>8人

<兼任研究員>7人

<専任職員>2人

研究開発センター多摩事務課

<専門嘱託>1人

<事務嘱託>3人

<臨時職員>7人

名誉研究員5人、客員研究員3人、
RA3人

2 所蔵資料の概要

古典文庫（1880年以前の社会科学の貴重書）

- カール・マルクス『資本論』1867年（初版、マルクスのクーゲルマン宛ての献辞入り）
- アダム・スミス『国富論』初版（1776年）
- ヨハン・ズュースミルヒ『神の秩序』初版（1741年）
- ジャン・ジャック・ルソー『社会契約論』初版（1762年）
- アナーキズム関係の資料を内容とするエルツバッハー文庫（Eltzbacher-Library of Anarchism）



協調会文庫

1919年に労使協調を目的に設立された協調会
戦後、中央労働学園、法政大学社会学部を経て
法政大学大原社会問題研究所に継承
（図書約8,600冊、パンフレット類6,600冊）

↓
一部は、マイクロフィルムとして刊行

法政大学大原社会問題研究所監修、協調会研究会編集・解説『協調会史料 日本社会労働運動資料集成 1920年代～1930年代』柏書房、2000年

ほぼ全内容（約72600ファイル）をデジタル公開



向坂文庫

戦前は「労農派」の論客として日本資本主義の分析に従事し、戦後は社会主義協会の代表として日本における社会主義の理論研究と実践に大きな足跡を残した向坂逸郎の蔵書・資料約7万冊を旧宅ともに受贈。



法政大学向坂逸郎記念国際交流会館



→竹久夢二のコマ絵



『直言』2巻20号（1905年）



『平民新聞』52号（1907年）

ポスターコレクション



1927年「無産者新聞」
柳瀬正夢（1900-1945）の作品



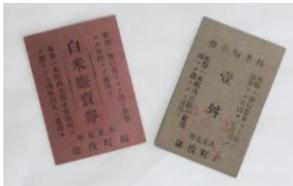
1928年普選ポスター



戦前期社会運動関係資料

米騒動

「米騒動関係資料」（細川資料）
1926年から33年にかけて、片山潜の勧めで細川嘉六を中心とする大原社会問題研究所が収集した1918年の米騒動に関する資料。



1918年「白米購入券」と「外米購入券」

水平社運動

当事者による初めての人権宣言として「世界記憶遺産」への登録を目指していた「全国水平社創立宣言と関係資料」の一部。この「水平社宣言」の所蔵館は本研究所を含め、3館のみ。



1922年「水平社綱領・宣言」

戦後労働運動関係資料

産別会議資料



組合文芸誌資料



三池争議資料

堺利彦関係資料

堺利彦（1871-1933年）より購入
1908年の赤旗事件の赤旗と同種のもの



向坂文庫に含まれていた資料
1960年代に堺の娘から向坂が購入した
堺利彦の旧蔵書・「大逆文庫」



遺族より2013年に寄贈されたもの（近藤文庫）
「大逆帳」、書簡、写真等

堺利彦・幸徳秋水
『共産党宣言』ノート

環境アーカイブズ資料



国内外の環境問題、環境政策、環境運動の資料（約850箱）



薬害スモン関係資料（約400点）

3 資料の収集・整理・保存・公開をめぐって

課題：飽和状態の書庫、大量の未整理段ボール、劣化資料の存在

①収集資料の厳選

寄贈希望→「寄贈資料明細書」→事務会議で決定

②未整理資料の所蔵確認、資料整理マニュアルの整備

資料担当兼任研究員

(貴重書1名、産別会議資料1名、堺・近藤資料1名、権田資料1名)

③劣化資料対策

マイクロフィルムの劣化(2015年)、カビ対策(2016、17年)

資料の修復・撮影・保存：『水平新聞』の事例

全国水平社の機関紙『水平新聞』の修復 (2016年12月～2017年3月実施)

- ・1924年6月20日～1937年8月1日、4次13年にわたり発行
- ・二つの復刻版
- ・15号は50部しか発行されておらず、復刻版未収録

修復のきっかけ

2016年4月、水平社博物館(奈良県御所市)より貸出依頼



現物を確認したところ、移送、展示に耐えられない状態、デジタルデータのための提供



基本方針

閲覧要請が多く原本の傷みが激しい資料はデジタルデータを作成、閲覧時にはデータを印刷したものを利用

原本は中性紙に包んで閲覧停止の書架に保管

原本の展示利用要請にこたえるべく修復へ

- ・ 製本された原本を1枚ずつの元の状態へ
- ・ 文字の判読を優先した修復
- ・ 脱酸処理
- ・ 保存容器の作成

出所) 中村美香「大原社会問題研究所所蔵資料『水平新聞』について——修復・保存・公開」『大原社会問題研究所雑誌』711、2018年1月号、64-84頁 (https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/images/oz/contents/711_06.pdf)



おわりに

資料利用の促進に向けて

- ・ 研究利用

法政大学大原社会問題研究所／榎一江編『戦時期の労働と生活』法政大学出版局、2018年

- ・ 展示利用

法政大学大原社会問題研究所100周年記念展示

- ・ 資料保存

(詳しくは、<https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/>)

